

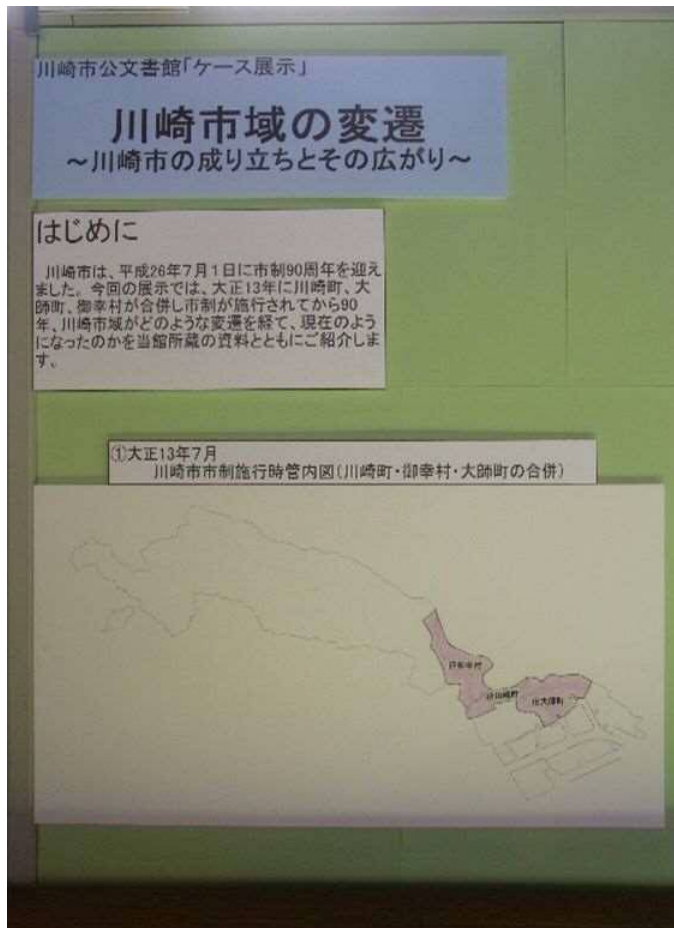
川崎市公文書館だより

～Kawasaki City Archives News～



KAWASAKI CITY

第34号 平成28年2月



展示リニューアル！！！！

当館では、昨年末から展示スペース全体の大規模リニューアル作業を進め、平成28年1月5日からリニューアルした展示を公開しています。このリニューアルをするにあたって、常設展示のリニューアルはもちろん、以前までの常設展だけでなく、企画展もおこなえるような新しい構成にしました。

展示構成は、①あなたに伝えたい記録と記憶 ～公文書館所蔵資料から～（企画展示）「知られざる本庁舎の歴史」、①常設展示「川崎市公文書館 川崎市公文書館の役割」、②ケース展示（常設展）「川崎市域の変遷 ～川崎市の成り立ちとその広がり～」、②常設展示「公文書の変遷～近世から近現代まで～」となっています。

今回のリニューアルから開始した企画展示は、本庁舎の変遷を公文書や写真などの史料をもとに紹介する内容となっています。また、内容を大幅に見直した常設展示①では、川崎市公文書館はどのような仕事をしているのかをわかりやすく説明する内容とし、同じく大規模リニューアルしたケース展示は、川崎市制施行から現在まで、市域がどのような変遷をたどったのかを当館所蔵の公文書をもとに紹介する内容となっています。

今回の展示では、全体的に表、図、写真を多く用いて、分かりやすい構成にいたしました。当館までお越しの際は、是非ご観覧いただき、川崎市と本庁舎の歴史をたどっていただければと思います。

発行 川崎市公文書館



聞いて損はない!!?古文書のつづき⑪

～古文書がお披露目されるまでpart.3～

連載企画!



皆様、ご無沙汰しております。古文書でございます。
今年度の古文書講座も全て好評のうちに終了しました。講座のテキストは全て複製古文書から印刷して作成するのですが、今回はその複製古文書の元データとなる、マイクロフィルム作成について紹介していきます。



マイクロフィルム

(5) 撮影する古文書の選定

毎年予算内で撮影可能なコマ数を年度初めに計算し、その枠内で撮影する文書群を選定します。膨大な量の文書群に関しては、分割して撮影をします。撮影したものが、後のマイクロフィルムとなります。

(6) 館内でコマ数の確認

複製古文書1頁を撮影1コマとカウントするのですが、大きな文書や絵図などは1頁に収まらないため、数頁にまたがる場合があります。撮影1コマの価格と予算との調整を計るため、撮影を委託する前に撮影対象の古文書のコマ数を数えます。

(7) 撮影業者の入札と選定

年末前後に、撮影を委託する業者を選定するために入札を行います。

(8) 古文書の撮影

1月～3月末まで、入札で決定した業者による撮影が始まります。この際に、当館所蔵の歴史的公文書も同時に撮影を開始します。

(9) 複製古文書の作成とお披露目

撮影が終了しマイクロフィルムが完成したら、これをもとに印刷を業者に委託し製本します。所蔵者の方より公開許可を得ているものは順次当館で登録し、公開していきます。

こうして皆様のもとへ複製ではありますが、古文書がお披露目され、利用されていきます。

今回はこれにて!!



複製古文書



公文書館のお仕事～市政資料の収集～

川崎市公文書館では、川崎市が発行した冊子体の市政資料を収集しています。川崎市の市政資料は、公文書館に送付されることとなっており、そのため新しい市政資料が(写真①)毎週公文書館へと続々やってきます。

公文書館に送付された市政資料については、職員が市政資料目録の入力と、類記号・登録番号の付与を行い、公文書館2階の市政資料室に配架して(写真②)、利用する方々が自由に閲覧できるようにしています。これまでに収集した市政資料の冊数は、約2万冊です。市政資料の一覧は、市政資料目録として、当館ホームページにて公開しています。是非ご覧になってください。



新着図書

写真①



写真②

公文書館の「講座」－講師と受講者の熱－




川崎市公文書館では、公文書館の資料等を活用し、川崎の歴史と文化に親しんでいただくことを目的として、毎年各種講座を開催しています。

古文書講座は、公文書館保有の古文書を利用して、ただ昔の文書を読めるようになるためだけでなく、川崎の歴史と文化に親しんでいただくことを目的に開催しています。新聞等を気をつけて読むと、古文書ブームといえるように、各地で講座が開催されています。公文書館の古文書講座も毎回たくさんの方の参加をいただいております。抽選で受講者を決めている状況です。

古文書講座は、習熟度に応じて「入門」、「初級」、「中級」の3コースを用意しています。

入門古文書講座	初級古文書講座	中級古文書講座
まったく初めて古文書に触れる方向け	さらに古文書の学習を進めたい方向け	古文書学習で歴史学習を深めたい方向け
古文書の基本的な読み方	「近世川崎の交通事情」	「戊辰戦争と川崎の村々」
		
菊地悠介（川崎市公文書館）	政木奈穂（川崎市公文書館）	神谷大介氏（横須賀市市史編さん係）

また、古文書講座のほかにも、川崎の歴史について専門家の講義を受ける「歴史講座」や、より多くの方に川崎の歴史や文化について理解を深めていただく「歴史講演会」を開催しています。

歴史講座 「多摩川の清流と川崎」		
用水と多摩川の渡し	多摩川河口地域の漁業生産と流通	多摩川と紙漉きについて
		
斉藤司氏（横浜開港資料館）	出口宏幸氏（駒沢大学非常勤講師）	落合功氏（青山学院大学教授）
 <p data-bbox="523 1617 598 2085">平成二七年度歴史講演会 「川崎の水道の始まりと石井泰助」</p>		<p data-bbox="638 1637 1489 1749">どの講座も、「受講してよかった」「また来年も受講したい」「もっと開催してほしい」など、好評をいただいています。</p> <p data-bbox="638 1751 1489 1939">歴史は、映画やドラマのように英雄だけが作るものではなく、多くの方の生活の積み重ねです。古文書や資料を読みといていくと、川崎で暮らしていた昔の人々の生活の様子がわかります。すると、今まで何気なく通っていた道の風景が違うように感じられてくるのです。</p> <p data-bbox="638 1942 1489 2092">公文書館は、このように歴史資料を通して昔と今をつなぐお手伝いをして、多くの方に“ワクワク”“ドキドキ”を感じていただけるように、これからも講座の企画に力を注いでいきたいと思います。</p>

公文書館の散歩道



当地の鎮守「小杉神社」の近くに来ると、「節分会」の準備に慌しく動く人影が見えます。「鬼は外、福は内」の掛け声の中、あちこちの路地を鬼たちが逃げ回る季節が来ます。かつて季節の変わり目には邪気(鬼)が生じると考えられ、それを追い払うための悪霊払いの行事といわれます。

地方によっては異なるようですが、一般的には豆をまき、年齢の数だけ豆を食べて厄除けを行います。平安の昔に炒り豆で鬼の目を打ちつぶして、災厄を逃れたという故事伝説に由来するそうです。

手のひらを互いに見つめる祖母と孫

年の数だけ鬼打ちの豆

戦乱や災害、飢饉などは鬼の仕業と考えられた時代、悪いもの、恐ろしい物の代名詞として使われますが、改心して安産や育児の神となった「鬼子母神」のたとえもあり、人の助けとなることもあるようです。

さて過ぎた年には誘拐や殺人、幼児や年寄りへの虐待など、鬼が驚くような事件が、覚えていられないほど続きましたが、人の世には悪を退治する「炒り豆」はないようです。炒り豆で容易に退散する鬼の姿に、愛嬌さえも感じられるのは自分だけでしょか。



節分を間近に控えた夕暮れ時、緩い坂道から神社の脇に出ると、のぼりが風にたなびき、時折舞い上がる枯葉の音だけが響いています。

小さな祠の陰から人間の方がよほど恐ろしいと、「百鬼夜行」の人の世を窺う赤鬼、青鬼のつぶやきが聞こえるようです。

今年は「申年」災厄が立ち去る、良い年となってほしいものです。

人の世に炒り豆が欲しい節分会

(おさんぽびと)

◇開館時間

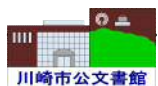
午前8時30分から午後5時まで

◇休館日

毎週月曜日

祝日法に定める休日(休日が月曜日に当たるときは火曜日も休館です。)

年末年始(12月29日から1月3日まで)



川崎市公文書館

〒211-0051 川崎市中原区宮内4-1-1

電話 044-733-3933

FAX 044-733-2400

E-mail 16koubun@city.kawasaki.jp

ホームページ <http://www.city.kawasaki.jp/>

shisetsu/category/19-4-0-0-0-0-0-0-0-0.html

category/19-4-0-0-0-0-0-0-0-0.html

